

6.29学館解放集会

全ての明治大学の学友諸君、サークル員諸君、来る6・29学館解放1周年集会上に在りてに結集されることを要請します。昨年、6月29日、二部の先進的学友の手によって本校地区学生会館の、あの厚い二ヤ板を取りはずし、数百名の学友によって突入を貫徹し、29・30・1日の3日間、渡り、我々の実力による解放を勝ち取っていった。このような、突出した斗いを斗い抜いた記念すべき日は、非連続的な解放斗争を連続的な直線の上に斗い抜いていく、突破口として革命的に斗い抜いていかねばならぬと思ひます。都田地区一帯は、60年の秋以来、権力の武裁制下にあり、今度の迎撃返還協定実行阻止斗争の時も、日入、中入、そして明大に外漏措置をとらざることにあり、都田地区一帯をロックアウトしてきた。このような状況の中で本校地区学生会館の存在は非常に重要な意義を持っている。それ故に、学校当局は権力と一体となり、たロックアウト攻撃を我々にかけてきている。我々は堅固たる反響体制の和衆を押し進めることが早速な課題だと思ひます。我々は、この向の学館斗争の限界をふまえて三地区の学館運営委員会の有机的結合を築き取り、学館特別委員会を結成した。この機関そのものは、当局との交渉を行う機関として、また、三地区の統一的な運動を保障していく場としてある。和泉地区の学生会館については、4月からの運動が、人数的不足と、事務的な事情に振り回されしきった状況があったので停滞しきま、ていのが現状である。このことは、目的性を持った学館運動が存在しなかった。この結果としてあると思ひます。それ故に、本校地区学生会館の解放斗争は、目的性を持った運動の追求として、つまり、学生会館を開けた後、我々が、そこで何をやら、ていくのか、そして、何を表現していくのか、という事を明らかにしていくことが必要なのである。このような方向性から、学館解放斗争を正しく、革命的に斗い抜き、学館運動の発展にむけて前進していくなくてはならないだろう。中外的なことは何なのか、政治に何うことは、自己にとって如何なる意味があるのか、我々が共同性を志向するのは何故か、といったような根源的問題を再度再教化することが必要であらう。70年代という困難な時代は、我々に、このようなことを要請しているのだらう。

4c



和泉中庭集会

5c 半本校4号館前

学館特別委員会